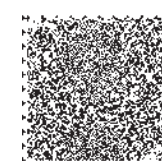
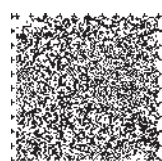


千代田区 第4次基本構想

伝統と未来が調和し、
躍進するまち

～彩りあふれる、希望の都心～



ご挨拶

時代は今、大きな転換期を迎えています。地方公共団体にあって、気候変動や新たな感染症への対策など世界共通の課題に立ち向かっていかなければなりません。また、本区は、当分の間、人口増加が見込まれていますが、我が国は人口減少社会に転じています。労働力人口の減少は豊かさや活力を失わせかねず、総合的な対策を講じていかなければなりません。

世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、暮らしや価値観に多大な影響を与えました。命の重さと人のつながりの大切さを再認識した私たちは、今まで当たり前だった日常が、いかに得難いものであったかを知りました。

一方で、コロナ禍等に起因するパラダイムシフトの渦中にある私たちは、かつてないスピードで進化するデジタルの力の活用により、新たな価値を創造し、QOL（暮らしの質）を高めています。

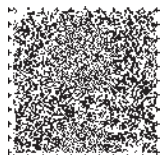
本区は、社会経済情勢が大きく変化していく中、新たに生じる様々な課題に真摯に向き合い、サステナブルな社会を実現していかなければなりません。

このような認識を踏まえて、千代田区第4次基本構想では、「伝統と未来が調和し、躍進するまち～彩りあふれる、希望の都心～」を目指すべき将来像としました。不易流行の理念の下、先人が築いてきた伝統を大切にしながら、新しい時代とも調和を図り、躍進し続けるまち、すなわち、変化に柔軟に対応し、すべての人が輝き、希望に満ちたまちを目指します。

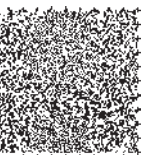
そして、日本の政治・経済・文化の中核を担ってきた千代田の地のダイナミズムをさらに発展させ、未来に向けて躍進し続けていきます。また、多様な人々の交流によりコミュニティが活性化し、イノベーションが生まれる、多彩な魅力あふれるまちを築き上げてまいります。千代田区に住み、働き、学び、集うすべての人々が活躍し、住み続けられるまちを目指し、区民一人ひとりのWell-Beingにつなげてまいります。



令和5（2023）年3月
千代田区長 樋口 高顕



音声コード（Uni-Voice）対応アプリを使い、コードにかざすと、内容を音声で読み上げます。



千代田区歌

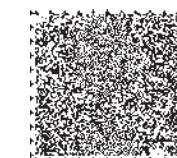
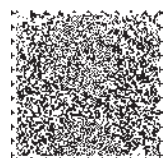
制定 昭和32年3月15日告示第2号
作詩 佐藤 春夫
作曲 山田 耕筈

1. 並ぶ官庁 広場 濠

みかど みやい
帝の宮居とりめぐり
わが千代田区に誉あり
大東京の中心地
江戸の名残も風情にて
ここを都の都ぞと
澄めり千代田の城の月

2. オフィスセンタア テレビ塔

世界の文化ひしめきて
わが千代田区に栄あり
新日本の心臓部
国の要と他も見む
かなめ ひと
ここを都の都ぞと
住めり千代田の区民われ



千代田区の成り立ち

江戸城跡を中心に形成されている千代田区は、太田道灌が江戸氏居館跡に築城したことに始まります。のちに、徳川家康がこの江戸城に居城し、代々の将軍により城や市街地が拡張・整備され、現在の皇居を中心としたまち割りとなりました。

また、千代田区が位置するこの地は、徳川幕府の成立から、日本の政治・経済・文化の中心として発展し、維新後の明治11(1878)年には、千代田区の前身である「麹町区」と「神田区」が誕生しました。

その後、第二次世界大戦の戦禍により、都心や江東方面の各地は、まさに文字通りの焼け野原となりました。麹町、神田両区も面積の三分の二が焼け、かつて20万人以上あった人口は、わずか3万人に減ってしまいました。

区の実態がこのような状況であった一方、地方自治体の行政、財政における権限は拡大され、それに対応した基盤を作るために区の規模を大きくする必要があり、区の整理統合を行おうとする機運が生じました。そして、東京都区域整理委員会が設置され、様々な検討を経て、従来の35区から22区に整理統合する案が答申されました。

このような統合案について、議決を求められた各区会は種々検討をしましたが、麹町・神田両区会は昭和21(1946)年12月27日に他区に先駆けて両区の統合を議決しました。

そして、昭和22(1947)年3月15日の新区発足に際しては、次のような申し合わせを行い、新しい出発に備えました。



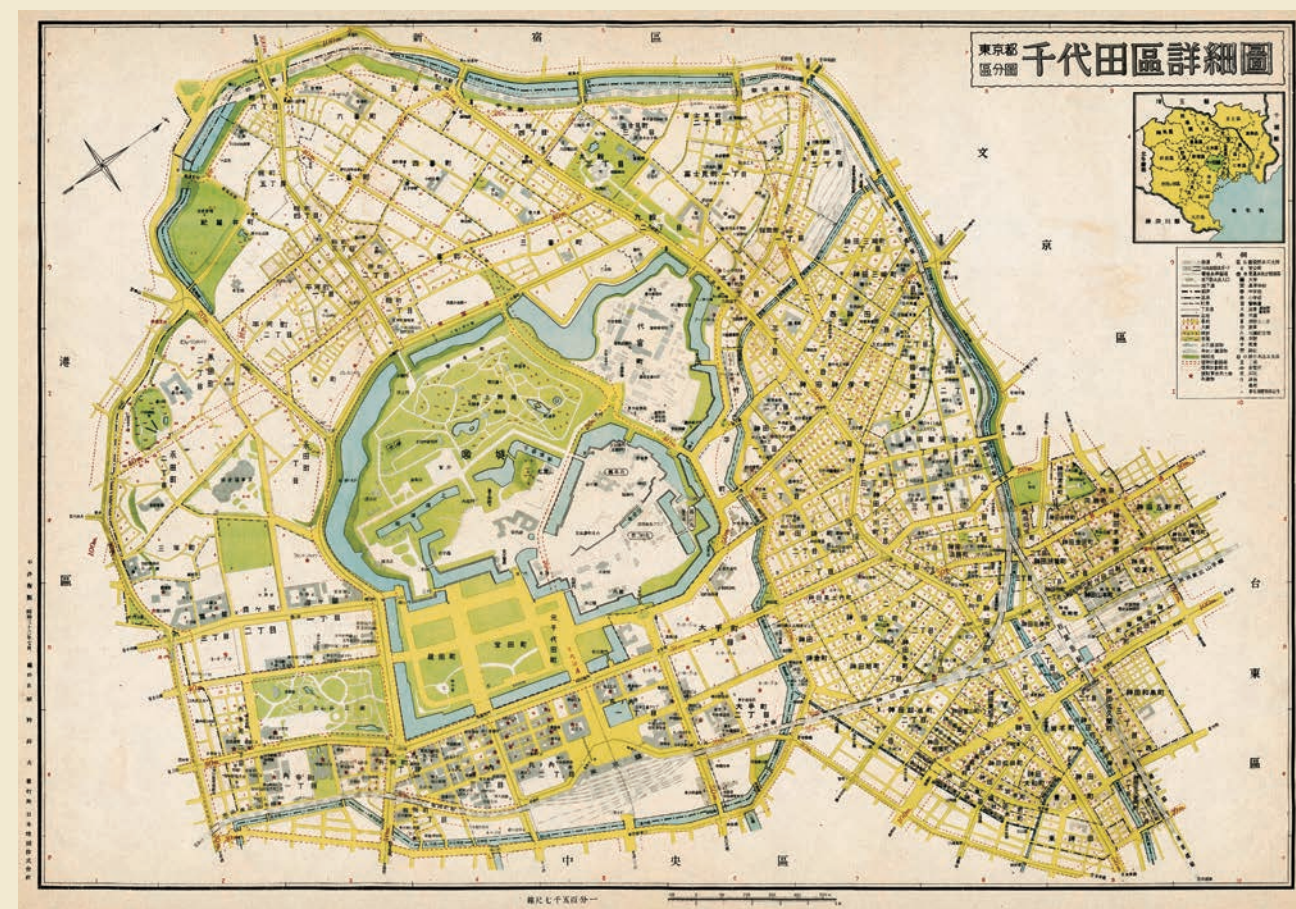
千代田区新発足ニ当リ旧麹町区旧神田区ノ区会議員(行政委員)ハ、円満ニ左ノ申合セヲシタ

(1) 区役所ハ当分旧神田区役所ニ置クモ将来ハ区ノ中央(九段下附近)ニ設置スルコト

(2) 新区ノ融和一体化ヲ図ル為ノ互議協調ニ努ムルコト

(3) 両支所ノ職制ヲ合理化シ自治ノ均衡ヲ図リ其ノ発達ヲ期スルコト

以上



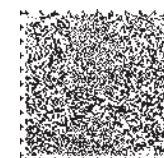
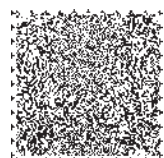
昭和22(1947)年に発行された千代田区の地図(復刻版)

区名については、各区が新区発足ぎりぎりまで考えて、そのほとんどが昭和22(1947)年2月以降に決めているのに対し、本区は、統合を議決した昭和21(1946)年12月に「千代田区」とすることを同時に議決していました。

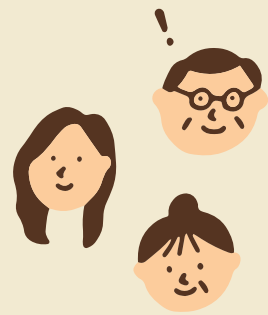
この「千代田区」という名は、両区の統合が話題にのぼった当初から、これといった異論もなく認められていました。それは、「千代田」という名前が江戸城の別名「千代田城」にちなんだものであり、本区が、この城を中心に発展してきたことから、新しい区名としてごく自然であり、文字も易しく、言葉の響きも美しいという理由からだろうと考えられます。

このようにして、70年の歴史をもった麹町区と神田区は昭和22(1947)年3月14日を限りに、翌15日から「千代田区」として、新しくも輝かしい第一歩を踏み出すことになりました。

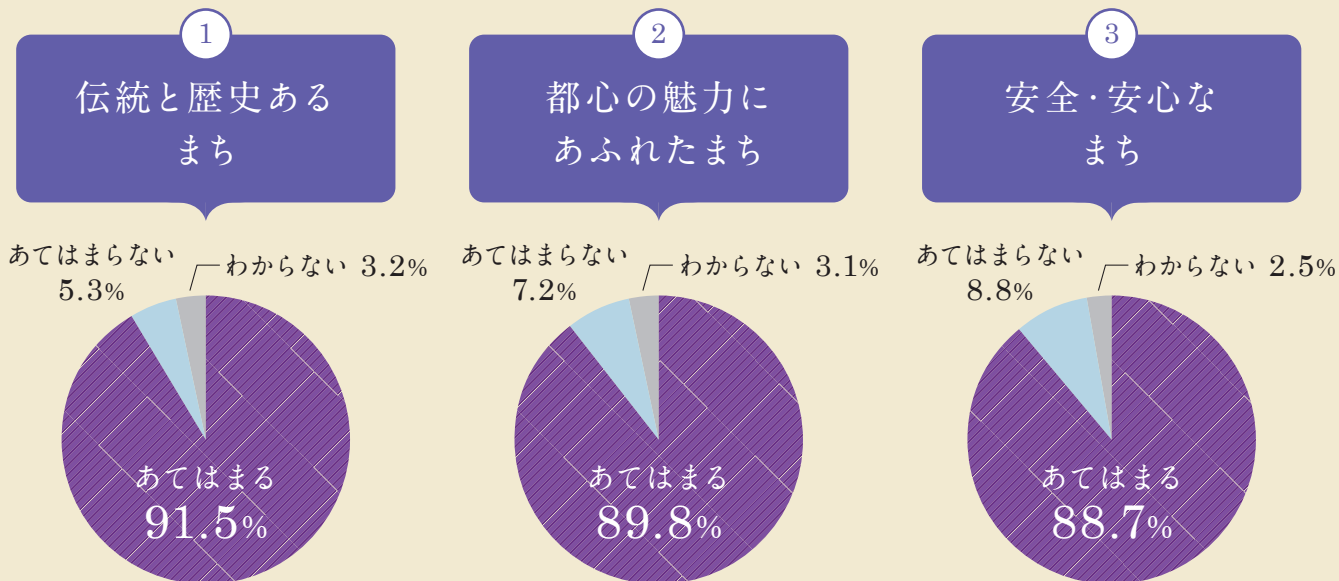
出典：ちよだインフォメーション2021(便利帳)(令和3年11月発行)
千代田区ホームページ「区の起こり・由来」を基に作成



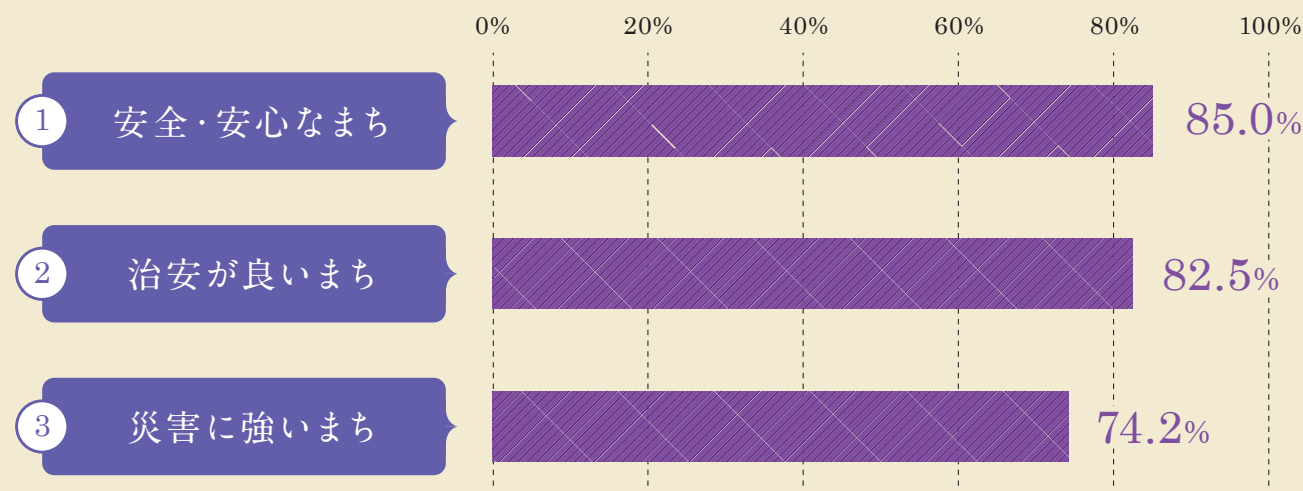
千代田区の「今」と「将来」のイメージ



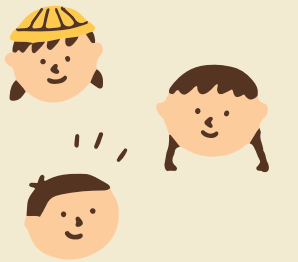
大人が思う
今の千代田区のイメージ



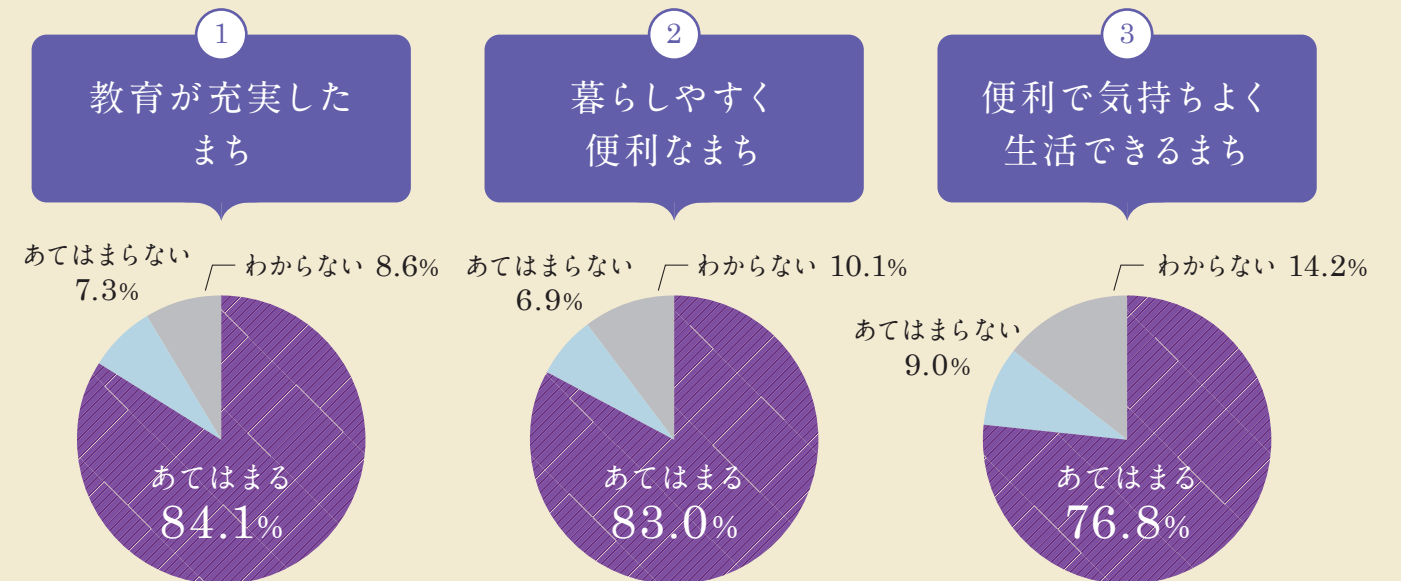
大人が望む千代田区の将来の姿



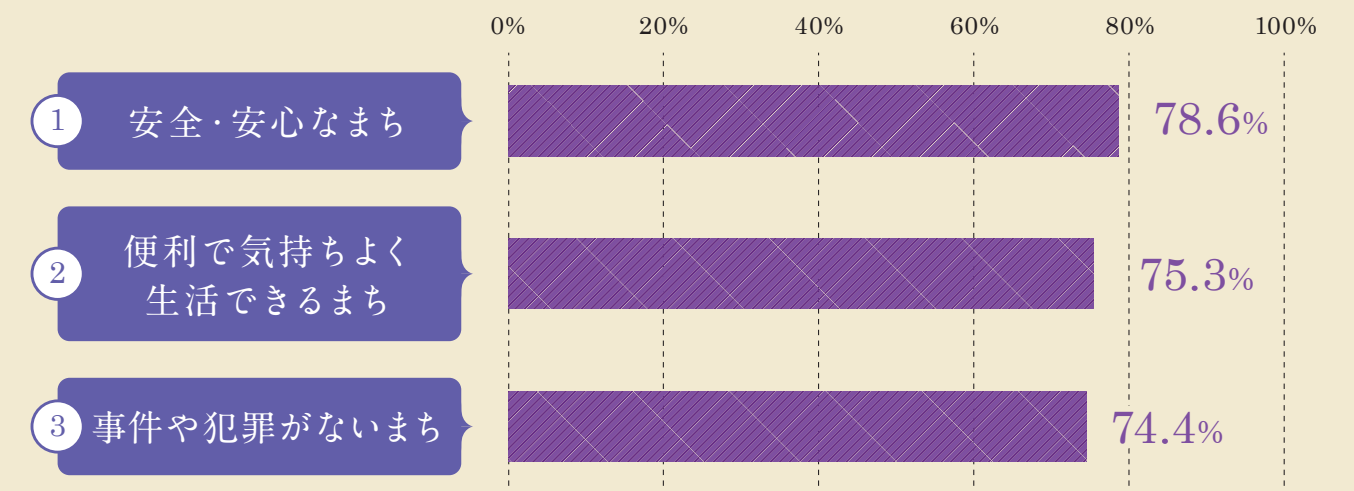
※選択数が多い上位3位までを掲載



子どもが思う
今の千代田区のイメージ



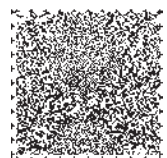
子どもが望む千代田区の将来の姿



※選択数が多い上位3位までを掲載

「区の施策や将来像に関するアンケート調査」結果より集計

◎実施期間：令和4（2022）年1月20日～2月9日
 ◎対象：千代田区在住の満18歳以上の男女
 ◎回収結果：4,000件配布、1,300件回収（回収率32.5%）
 ◎設問：①「今の千代田区はどのようなまちだと思いますか」に対し、24の選択肢について各々5段階から回答
 ②「10年先を見据えたとき、千代田区がどのようなまちになってほしいですか」に対し、24の選択肢から複数回答
 ◎構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%にはなりません。



「次期基本構想策定にかかるアンケート」結果より集計

◎実施期間：令和4（2022）年7月11日～7月20日
 ◎対象：区立小学校に在籍する5・6年生及び区立中学校・中等教育学校に在籍する生徒
 ◎回収結果：1,689件回収（回収率76.7%）
 ◎設問：①「今の千代田区はどのようなまちだと思いますか」に対し、24の選択肢について各々3段階から回答
 ②「10年先の未来では、千代田区がどのようなまちになってほしいですか」に対し、24の選択肢から複数回答



目次

I 千代田区第4次基本構想

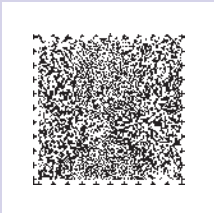
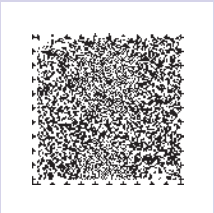
はじめに	12
1 区と基本構想の役割	13
2 めざすべき将来像	14
3 分野別の将来像	16
・自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち	
・集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち	
・やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち	
4 基本構想の実現に向けて	18

II 資料1

教育と文化のまち千代田区宣言	22
国際平和都市千代田区宣言	23

III 資料2

1 千代田区基本構想懇談会の概要	26
2 千代田区基本構想懇談会からの提言書	28
3 懇談会や団体関係者ヒアリングで いただいた主な意見	32
4 千代田区基本構想懇談会設置要綱	38
5 策定過程	39



千代田区 第4次基本構想

はじめに

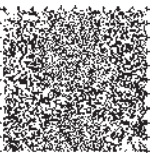
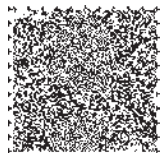
区と基本構想の役割

めざすべき将来像

分野別の将来像

- ・自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち
- ・集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち
- ・やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち

基本構想の実現に向けて



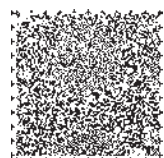
千代田区は、江戸城を中心に発展した地域であり、江戸時代から、政治・経済・文化の中心として歴史を刻んできました。

しかし、昭和30年代の高度成長期から平成初頭のバブル経済の崩壊にかけて業務地化が進み定住人口が減少した結果、自治体の存続そのものが危ぶまれる状況に至りました。

こうした社会的背景のもと、昭和53年6月に区として初めて基本構想を策定して以降一貫して人口回復に向けた政策を展開し、現在では、平成13年に策定した第3次基本構想に掲げた5万人の目標人口を超え、当分の間、人口増加傾向が続くことが見込まれています。

本区の人口が増加傾向にある一方、わが国の人口はすでに減少傾向にあり、経済の活力低下などが懸念されています。また、少子・高齢化の進行による社会への影響、首都直下地震、地球温暖化など、区民の命や暮らしに直結する様々なリスクが高まりを見せています。加えて、新型コロナウイルス感染症、国際化の進展、ジェンダー平等や多様性の尊重など、人々の意識も変化しています。こうした状況の中、今後、社会経済情勢の変化のスピードが一層加速することが想定されています。

このため、今後おおむね20年先の社会を見据え、これから先の変化が激しく不確実な世の中にあっても、リスクや環境変化に的確に対応し、持続可能な地域社会を築いていきます。そして、基礎的な地方公共団体として、区民の命や健康を守ることを第一に、「教育と文化のまち千代田区宣言」や「国際平和都市千代田区宣言」などを踏まえ、区に関わるすべての人が輝けるまちを実現し、暮らしに明るさと豊かさを実感できる千代田の新時代を築いていきます。



1

区と基本構想の役割

#01

住民に最も身近な基礎的な地方公共団体としての役割

地方公共団体は、憲法で定める地方自治の本旨に基づき、住民福祉の増進を図るために、地域における行政を自らの判断と責任において総合的に実施する役割を広く担う存在です。また、住民に最も身近な行政主体である千代田区は、東京都など、広域行政を担う地方公共団体と異なり、住民の暮らしに直接関わる仕事を優先的にを行っています。

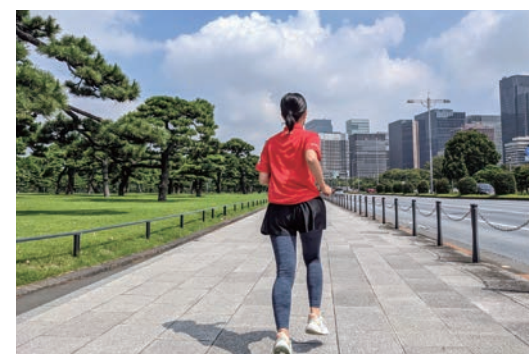
これまで千代田区は、基礎的な地方公共団体として、自主的かつ自律的な自治体運営を進めてきました。今後も引き続き、安定的な財源の確保に取り組むとともに、自らの意思と責任で主体的に取り組める住民自治を確立し、住民にとって頼れる存在をめざします。



基本構想は、千代田区の将来像や分野別のあるべき姿を描き、その実現に向けて進むべき方向性を示すものです。

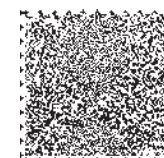
また、区の行政計画の最上位に位置付けられる理念であるとともに、行政運営の基本となる指針です。

さらに、区民や団体、企業など、千代田区に関わるすべての人々と共有し、一体となって実現するための指針としての役割を持つものです。



#02

基本構想の役割



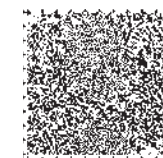
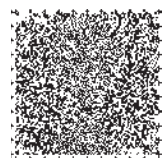
2 めざすべき将来像

伝統と未来が調和し、
躍進するまち ～彩りあふれる、希望の都心～

千代田区は、皇居を中心に、官庁街・オフィス街・商店街・住宅街など個性豊かなまちを有しています。そして、そこで活動する人々が、お祭りやまち並みなどに象徴される文化、伝統を受け継いできました。

私たちが受け継いできた伝統は、長い歴史の中で、それぞれの時代における人々が新たな文化や価値観を取り入れ、発展してきたものであり、千代田区の魅力を高めてきました。

社会の変化が激しい時代にあっても、私たちは、先人が築いてきた伝統を大切にしながら、新たな時代における文化や価値観とも調和をはかり、未来に向け力強く躍進し続けます。そして、人やまちとのつながりを大切にし、住み続けられるまちをめざすとともに、千代田に住み、働き、学び、集うすべての人々が輝き、彩りにあふれ、将来にわたって希望に満ちた魅力あふれるまちをめざします。



3 分野別の将来像

コロナ禍を経験した私たちは、これまで当たり前だった日常のなかに、“普遍的な幸せ”があることを肌で感じました。

このような実体験から、私たちは、時代や社会情勢が激しく移り変わるなかにあっても、変わることのない魅力あふれる未来の姿を描き、人やまちを豊かにすることの重要性をあらためて認識しました。

私たちは、今ここに「めざすべき将来像」を実現したまちと人々の暮らしの姿を掲げ、時代の変化に的確に対応しながら、その実現に向けて、果敢に挑戦していきます。

「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」

いつまでも元気で充実していること。

それはすべての人にとって普遍的な願いです。

その願いを叶えるため、すべての人が共に支えあい、自分らしく心身ともに健康に、安心して生活を送れるまちをめざします。また、生涯を通じて心豊かに学び、成長しあえるまちをめざします。

- 多様なライフスタイルやライフステージに応じ、安心して子育てができています。
- すべての子どもたちの個性や意思が尊重され大切に育まれながら、すくすくと成長しています。
- お互いに支えあい、誰ひとり取り残されることがなく、自分らしく、自立した生活を送ることができています。
- 衛生的な環境のもと、いきいきと健康に暮らしています。
- 生涯にわたり学びやスポーツに親しむことで、充実した人生を送れるようになっています。
- 伝統や歴史、文化芸術に触れ、受け継ぎ、学んでいくことで、心が豊かになっています。



「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」

まちには人がいて、はじめて活気とにぎわいが生まれます。

活気とにぎわいで魅力あふれるまちには、人が集まります。

人が集まることでつながるきっかけが生まれ、

互いに支えあうことができるまちをめざします。

また、区内には様々な企業や商店、大学等があります。

そうした千代田区の地域特性を活かし、地域経済を活性化させ、誰もが豊かさを享受できるまちをめざします。

- 活発な事業活動により、地域がうるおい、豊かな暮らしを享受できています。
- 人とのつながりが感じられ、支えあうことができています。

「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」

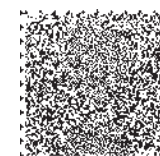
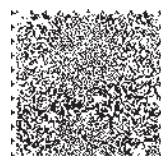
良好な環境は、人にやすらぎを与え、暮らしを豊かにし、

安全なまちは、人の安心につながります。

また、暮らし続けたいと思える住環境は、人々の誇りとなります。

身近に触れあうことができる自然と近代的なまち並みの中で、誰もが安心して快適にすごせるまちをめざします。

- 良好な環境が次世代に継承され、このまちに愛着や誇りを感じています。
- 人にやさしいまちづくりにより、便利で快適な都心生活を送っています。
- 地域特性を踏まえた強靱な都市基盤や災害に備えた体制のもとで、安心して暮らすことができています。



4 基本構想の実現に向けて

#01 変化の激しい時代への柔軟な対応

私たちは、変化が激しく将来の予測が難しい時代を迎えています。このような中で将来像を実現していくためには、機動的な区政運営が不可欠です。このため、効果的・効率的な行財政運営に努めるとともに、新たな技術や民間活力も積極的に活用しながら、様々な課題に柔軟に対応していきます。



#02 多様性を尊重し 認めあう社会づくり

将来像を実現し、豊かな地域社会を持続可能なものとするためには、多様な価値観や考え方を尊重し、互いに認めあうことが重要です。このため、多様性を包摂する社会づくりを推進します。

また、国際都市東京の中心である千代田区として、国や文化などの多様性を尊重し、人権や平和を守る取組みを進めていきます。



#03 参画・協働の推進

区と区民が一丸となって将来像を実現していくため、区民に対する情報発信を適時適切に行い、区政への区民の主体的な参画を推進していきます。

また、区民の様々な意見を尊重し、区民からの理解を得られるよう努めます。

さらに、区民、事業者、他自治体など、様々な主体との連携、協働を推進し、地域課題の解決や新たな活力の創出に繋げていきます。

